

令和7年度 地域づくり懇談会次第

日程・場所

田中地区	10月 6日(月)	中央公民館
滋野地区	10月 8日(水)	滋野コミュニティーセンター
祢津地区	10月14日(火)	祢津公民館
和地区	10月20日(月)	和コミュニティーセンター
北御牧地区	10月21日(火)	北御牧公民館

時間：午後6時30分から午後8時00分まで

1 当日の次第（進行：東御市）

1 開会（地域づくり支援課長）

2 あいさつ（企画振興部長、地域づくり協議会長、区長会長）

3 懇談

ア 今回の地域づくり懇談会の内容説明

イ 各テーマごとにグループ分け、懇談

4 懇談結果の発表

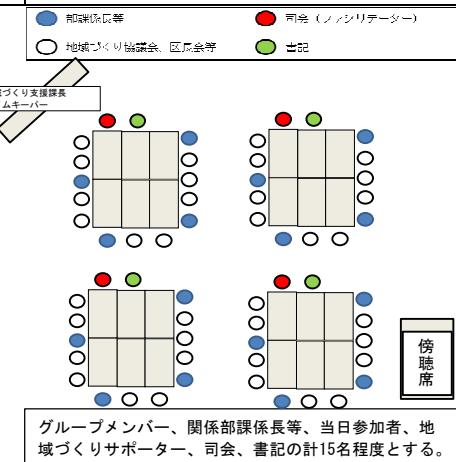
5 その他

6 閉会（地域づくり支援課長）

令和7年度東御市地域づくり懇談会

【北御牧地区】

時間 (目安)	① 北御牧地区における防災について	関係課	出された意見	市でできること	地域でできること できそうなこと	今後の方向性
25分	<p>＜懇談内容＞</p> <p>地震、洪水などの自然災害に対する備えが重要視されています。</p> <p>行政と地域のそれぞれが取り組むべき予防、応急対策について以下の内容をふまえ懇談し、確認したい。</p> <p>I 北御牧地区における危険個所の把握状況、その災害を未然に防ぐための対策、その他防災に関する計画について教えてほしい。</p> <p>II 災害の応急対策として、地域レベルでは避難行動、安否確認が重要であると考えるが、周知されているとは言えない状況である。今後どのように地域で取り組んでいったらよいか、また行政ではどのような支援ができるのか。</p> <p>(メモ) ①市と地域の役割分担を認識地域での防災体制、避難体制の再確認</p>	総務課 福祉課 企画振興課 建設課				
25分	<p>② コミュニティの再構築の必要性について</p> <p>少子化、人口減少による社会構造の変化に加え、コロナ禍による接触の希薄化により地域運営が困難になり、支えあうコミュニティの再構築が必要であると考える。</p> <p>行政と地域が取り組む協働の地域づくりについて以下をふまえて懇談したい。</p> <p>I 市では地域運営やコミュニティの現状をどのように把握しており、どのような対策を検討しているかを教えてほしい。</p> <p>II 本会では、地域福祉に着目したコミュニティの再構築について取り組みを模索していますが、行政ではどのような支援ができるのか。</p> <p>(メモ) ②地域活動が希薄化する中、成り手問題など、組織としての区が限界にきているため、このことについて意見交換を行う。</p>	関係課	出された意見	市でできること	地域でできること できそうなこと	今後の方向性



東御市発足以降の5地区の人口と年齢3区別人口の変動

資料の内容：

東御市発足の平成16年と令和7年における、総人口、年齢3区別割合を、地区別に比較した資料

北御牧の視点：

- ・総人口の減少数2,470人のうち、北御牧地区が1,190人で、48%を占めている。
- ・年少人口は、747人から394人に半減し、その割合は1割を割り込んでいる。市平均の11.3%と比べて2.4P少ない。
- ・生産年齢人口は、3,435人から2,255人になり35%減になっている。生産年齢人割合は、まもなく5割を割る状況にある。
- ・高齢者人口は、40%を超えた。

(単位：人、%)

4/1現在住民登録	東御市		北御牧		滋野		祢津		和		田中	
	平成16年	令和7年	H16年	R7年	H16年	R7年	H16年	R7年	H16年	R7年	H16年	R7年
総人口	31,324 人	28,854 人	5,609	4,419	5,403	4,887	5,226	4,705	6,274	5,878	8,812	8,965
	▲ 2,470		▲ 1,190		▲ 516		▲ 521		▲ 396		53	
年少人口 (0~14歳)	4,707 人	3,260 人	747	394	744	549	796	536	1,050	671	1,370	1,110
	▲ 1,447		▲ 353		▲ 195		▲ 260		▲ 379		▲ 260	
年少人口割合 %	15.0 %	11.3 %	13.3	8.9	13.8	11.2	15.2	11.4	16.7	11.4	15.5	12.4
	▲ 3.7		▲ 4.4		▲ 2.5		▲ 3.8		▲ 5.3		▲ 3.2	
生産年齢 (15~64歳)	19,637 人	16,056 人	3,435	2,255	3,553	2,628	3,194	2,577	3,908	3,357	5,547	5,239
	▲ 3,581		▲ 1,180		▲ 925		▲ 617		▲ 551		▲ 308	
生産年齢人口割合 %	62.7 %	55.6 %	61.2	51.0	65.8	53.8	61.1	54.8	62.3	57.1	62.9	58.4
	▲ 7.0		▲ 10.2		▲ 12.0		▲ 6.3		▲ 5.2		▲ 4.5	
高齢者 (65歳~)	6,980 人	9,538 人	1,427	1,770	1,106	1,710	1,236	1,592	1,316	1,850	1,895	2,616
	+2,558		+343		+604		+356		+34		+721	
高齢者人口割合 %	22.3 %	33.1 %	25.4	40.1	20.5	35.0	23.7	33.8	21.0	31.5	21.5	29.2
	+10.8		+14.6		+14.5		+10.2		+10.5		+7.7	

北御牧地区の最近5年間の人口変動と年齢3区分別人口

資料の内容 北御牧地区内の区の人口を令和2年と令和7年の5年間で比較し、令和7年の年齢3区分別人口と割合を示した資料

- 視点
- ・人口が10%以上減少した区…21区のうち8区（中八重原、切久保、本下之城、畔田、宮、布下、羽毛山、牧ヶ原）
 - ・年少人口割合が9%以下の区…10区（田楽平、中八重原、八反田、田之尻、畔田、南部、布下、島川原、大日向、牧ヶ原）
 - ・生産年齢人口が50%以下の区…12区（上八重原、田楽平、中八重原、芸術むら、下八重原、田之尻、畔田、北部、布下、島川原、光ヶ丘、牧ヶ原）
 - ・今後、高齢者人口が急増する区…7区（中八重原、芸術むら、八反田、田之尻、畔田、北部、布下）

区名	総人口			R7年の年齢3区分別人口						参考	
	令和2年	R7/R2変化率	令和7年	年少 (0~14歳)		生産年齢 (15~64歳)		高齢者 (65歳~)		準高齢者 (55歳~)	
東御市	29,948 人	▲ 3.7 %	28,854 人	3,260 人	11.3 %	16,056 人	55.6 %	9,538 人	33.1 %	13,179 人	45.7 %
北御牧地区	4,672 人	▲ 5.4 %	4,419 人	394 人	8.9 %	2,255 人	51.0 %	1,770 人	40.0 %	2,323 人	52.5 %
上八重原	440	▲ 8.0 %	405 人	38 人	9.4 %	227 人	46.7 %	140 人	34.6 %	194 人	47.9 %
田楽平	64	17.2	75	5	6.7	35	46.7	35	46.7	40	53.3
中八重原	280	▲ 11.8	247	17	6.9	115	46.6	115	46.6	145	58.7
芸術むら	188	12.2	211	20	9.5	97	46.0	94	44.5	128	60.7
白樺	130	28.5	167	25	15.0	99	59.3	43	25.7	74	44.3
下八重原	726	▲ 4.8	691	63	9.1	339	49.1	289	41.8	367	53.1
切久保	207	▲ 16.4	173	17	9.8	92	53.2	64	37.0	86	49.7
八反田	153	▲ 7.2	142	12	8.5	83	58.5	47	33.1	79	55.6
本下之城	142	▲ 12.0	125	19	15.2	66	52.8	40	32.0	59	47.2
田之尻	100	▲ 6.0	94	3	3.2	46	48.9	45	47.9	60	63.8
畔田	150	▲ 11.3	133	6	4.5	49	36.8	78	58.6	96	72.2
宮	189	▲ 12.7	165	15	9.1	94	57.0	56	33.9	76	46.1
御牧原南部	288	1.4	292	19	6.5	160	54.8	113	38.7	145	49.7
御牧原北部	390	▲ 6.9	363	37	10.2	173	47.7	153	42.1	187	51.5
布下	276	▲ 13.0	240	13	5.4	104	43.3	123	51.3	145	60.4
常満	115	▲ 0.9	114	9	7.9	68	59.6	37	32.5	60	52.6
島川原	236	▲ 4.2	226	20	8.8	111	49.1	95	42.0	110	48.7
大日向	175	▲ 5.1	166	12	7.2	93	56.0	61	36.7	91	54.8
光ヶ丘	48	10.4	53	10	18.9	24	45.3	19	35.8	28	52.8
羽毛山	321	▲ 10.0	289	30	10.4	161	55.7	98	33.9	127	43.9
牧ヶ原	54	▲ 11.1	48	4	8.3	19	39.6	25	52.1	26	54.2

福祉に着目したコミュニティの再構築

1 用語「まちづくり」、「地域づくり」について

(1) 「まちづくり」

① 意味等

- ・まちに暮らす全ての人々が、豊かな経済生活を営み、優れた文化を展開し、幸福な人生が送れるよう環境を整えること。
- ・かつては、地域開発、都市建設と似通ったニュアンスで使用された。

② もたらした変化

- ・都市部では…人と産業が都市部に集中し、経済活動が活発になった。反面、公害、生活環境の悪化、コミュニティの崩壊など、経済成長が生んだマイナス面が表面化した。
- ・地方では…中心市街地の衰退、農林業の担い手不足、少子高齢化、若者の減少、雇用の不安定などの様々な課題が蓄積された。地方においては、幸福な生活に不安を抱えながらも、経済的豊かさだけではない豊かさを求めるという考えが出てきた。

(2) 「地域づくり」

① 意味等

- ・地域開発のみならず、衰退した地域の復興を目指し再生活動を行う、広義の「まちづくり」活動。
- ・狭義の「まちづくり」と混同しがちで、地方開発のニュアンスで「地域づくり」を考えることが多く、イベント開催活動が優先されがちの要因でもある。

③ もたらした変化

- ・行事のマンネリ化や、地区コミュニティでの役員のなり手不足、関係の希薄化などに歯止めがかかる、コロナ禍で衰退した地域に復興の兆しは見えていない。

2 用語の再検討

(1) 地域づくりは大きく二つに分けられる

① 地域おこし

- ・地域資源に着目し、それを生かして取り組むイベントや情報発信などの活動。
- ・サービスの提供が、外部に向けられる傾向が強い。

② 地域づくり

- ・生活する場を基盤とし、日常生活の課題に着目し取り組む活動。
- ・サービスの提供が、住民に対して行われる傾向が強い。

(2) 用語の使い分け

用語を以下の通り使い分け、次の流れで取り組むことが理想的であると考える。

- ① まずは、自分たちにとって住みよい生活基盤を「地域づくり」によって整える。
- ② さらに、豊かな状態にするために「地域おこし」に取り組む。
- ③ 市全体として「まちづくり」に取り組む。

3 地域づくりの再検討

(1) 目的

現代が持つ「地域づくり」の意味を認識し、少子高齢化、人口減少による社会構造の変化に対応した将来への備えとして、支え合いのコミュニティを再構築する。

(2) 地域の変化

① 人口減少

- ・人口減少による課題は、地域運営が困難になることだと考えます。
- ・現実と向き合いながら、人が少ない状況でも地域を運営できるように、地区や区の役職や行事などを見直したり、時代の変化とともに地域の仕組みを再構築する必要があります。

② 人口構成の変化

- ・東御市発足当時は、地域の中に若者も多く、何かやろうとしても、やれる人が多くいました。
- ・故にたくさんの地域資源を残してくれたのですが、今それを以前のようにやろうとしても、できない現実があります。

③ 地域の支え合う力の低下

- ・働き方の変化、少子高齢化、人口減少などの変化によって地域の支え合いが弱体化しています。
- ・地域で課題を解決していくという地域力、あるいはお互いに支え合い共生していくような地域の福祉力が脆弱になりつつあります。

(3) 地域づくりの再構築

① 目標

「地域福祉に着目したコミュニティの再構築」

② 方向性

- ・地域住民が日常生活を営み、社会、経済、文化などあらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように取り組む。(社会福祉法第4条地域福祉の推進を引用)
- ・地域づくり協議会、社会福祉協議会、行政の縦割りではなく、広く「地域住民の日常生活」という土台の上で課題と向き合い、解決方法を探っていく。

みまきふれあいの郷づくり協議会+東御市社会福祉協議会

区単位に課題の解決、地域づくりを支援

まずは、いきいきサロンなど区民の交流の場の開催を支援

福祉行政、民生児童委員と協働し、支えあいの推進

防災行政と協働し、安全、安心の地域づくり

助け合い、共生する地域の再生